

学校経営方針

国立市立国立第五小学校

校長 大山 紀子

1. 本校の教育目標・・・目指す児童像

- ・学びあう子 自ら学び、自ら考え、共に高め合い正しく判断できる子を育てる。
- ・助けあう子 思いやりがあり、かかわり合い働きかける心豊かな子を育てる。
- ・きたえあう子 心と体を鍛え、磨き合い健やかに伸びる子を育てる。

2. 学校経営（チームくにご）の基本理念

本校の教育目標は「学びあう子 助けあう子 きたえあう子」である。この教育目標はいわゆる知・徳・体それぞれに全て「あう」という、互いの切磋琢磨を求める文言が入っている。開校以来の歴代校長先生を中心とする教職員・保護者・地域が求めた「くにごの子供たち」の理想の姿がそこにある。公教育の意義も、この相互の関わりによる高め合いにあると考える。しかし、児童一人一人がしっかりと自分のことは自分ででき（自立）、自分の考えをもち、自分で判断することができて（自律）初めて高め合いも可能となる。相互依存ではない、真に『学びあい、助けあい、きたえあい』ができる子供たちを、教職員一丸となり育てていくことを基本理念とする。

3. 教育目標を達成するための基本方針

	基本方針	方針を具現化させる取組
①	【人権教育の充実】 学校教育全体を通して生命・人権尊重の教育の徹底を図るとともに、助け合い・思いやりを基盤とした児童相互の交流や体験を重視した活動を通して、社会性に富み人間性豊かな児童を育成する。	○ 学級での温かな人間関係づくり ○ 一人一人の児童が輝く場面の設定 ○ 人権教育計画に根ざした授業 ○ 教育相談の充実・人権メッセージ ○ あいさつ運動 ○ 「楽しく」「仲良く」「安全に」・・・「そのために少しの我慢」
②	【教育課程の適正実施】 学習指導要領の趣旨に基づき、適正な教育課程の実施と授業時数の確保に努める。	○ 週ごとの指導計画の充実 （ねらい・配慮事項等）
③	【教職員の資質向上】 確かな学力の育成を行うため、授業改善に資する校内研究及び「くにご授業改善プロジェクト」等の研修の充実を図る。	○ 全学級研究授業実施 ○ 研究指定校として研究発表会実施 ○ 授業力向上の研修 ○ くにごOJTプロジェクト
④	【一人一人の児童が「わかる」授業の実施】 教育目標を学年の発達段階に応じて具現化し、指導体制及び指導方法を工夫することを通して、基礎的な知識及び技能の習得とこれらを活用する能力の育成を図るとともに、学ぶ楽しさや分かる喜びを通して、一人一人の能力・個性を伸ばす教育を推進する。	○ 少人数指導・習熟度による指導 ○ 「くにごメソッド」に基づく授業展開 ○ 交換授業の活用 ○ チーム読書プロジェクト ○ 言語能力の向上

⑤	<p>【健康教育の充実】 様々な教育活動と関連させて、基本的な生活習慣や規範意識、公共心を養うとともに、食に関する指導及び自ら体力や健康を高める指導の充実を組織的に図り、心と体を一体とした教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上プラン ○ 体力テスト・宿泊行事 ○ 保健指導・給食指導・食育指導
⑥	<p>【道徳教育の充実】 全教育活動を通して道徳性の涵養を図るため、道徳教育の要となる道徳の時間の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の時間の授業改善 ○ 道徳授業地区公開講座の充実
⑦	<p>【小中連携の推進】 キャリア教育及び小・中学校の円滑な接続の観点から、小中連携を計画的・組織的に進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階に応じたキャリア教育の推進 ○ ゲストティーチャーの活用 ○ 相互授業参観等及び協議会の充実
⑧	<p>【特別支援教育の充実】 特別支援学級（知的障害）設置校としての特色を生かし、交流及び共同学習を日常的に進める。相談支援委員会の定期的な開催を通して、児童一人一人の特性に応じた特別支援教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学級での交流及び共同学習実施 ○ 相談・支援委員会の充実 ○ 通常学級での特別支援教育の充実
⑨	<p>【保護者・地域との連携】 学校公開や土曜授業公開等における、保護者や地域の方々と連携した多様な教育活動の推進や地域人材の積極的な活用を推進する。学校支援ボランティアの組織的な活動を通して、児童の育成に協働し、教育活動を肯定的に支援する意識の醸成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校公開・土曜授業・研究授業公開 ○ 保護者との連携 ○ 桜守、農業生産者等との連携 ○ 学校・学年・学級だより等による速やかな情報発信 ○ HP活用プロジェクトの推進 ○ 「ちょこボ」積極的活用
⑩	<p>【学校評価の活用と特色ある学校づくり】 校内組織を活用するとともに、くにごサポート会議（学校関係者評価委員会）と連動した学校評価の充実を図り、本校や地域の実態に即した特色ある学校づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営会議・連絡調整会議・各部会の役割の明確化と連携 ○ プロジェクトチームの活動推進 ○ くにごサポート会議の充実
⑪	<p>【児童の安全を守る方策の整備】 安全体制の整備及び危機管理の向上を図るとともに、関係諸機関、家庭、地域との連携から、児童の安全確保の強化に努め、危険回避能力の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区班下校・セーフティ教室の充実 ○ 安全指導の充実 ○ PTA・育成会・自治会等との連携「くにご見守りプロジェクト」
⑫	<p>【外部機関との連携による問題の早期解決】 教育相談室や適応指導教室、子ども家庭支援センター等の関係諸機関と連携して問題解決に当たる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相談支援委員会の活用 ○ スクールカウンセラーとの連携

4. 目指す学校像

- (1) 児童が目を輝かせて登校し、真剣に学び合い、友だちや先生と仲良く元気いっぱい過ごす笑顔あふれる学校《子供の姿》
- (2) 全教職員が教育公務員としての自覚と使命感、誇りをもち、共通の目的に向かって、創造的に協働し、互いに切磋琢磨して人間性と専門性を磨き合う学校《教職員の姿》
- (3) 保護者や地域社会との相互理解、連携を図り、学校のもつ教育力を家庭・地域社会のために積極的に生かし、共に子どもを見守り、育てていく学校《保護者・地域からみた学校の姿》

5. 学校経営（チームくにご）の基本姿勢

- (1) 国立第五小学校は、ここに学ぶ児童のためにある。「子供たちのためにはどのようにするのが一番よいのか」をいつも判断の基準にする。

- (2) 授業力の向上を常にめざす。

学校は第一義的には「学ぶところ」である。小学校学習指導要領の内容を全て修得させて「小学校の全課程を修了する」ことになる。子供たちが「できた」「わかった」「そうだったのか」と、学ぶ喜びを感じることでできる授業を目指し、特に、校内研究・研修を通して相互研鑽を積み、自己の授業力を高めることを課題として取り組む。

- (3) 信頼ある開かれた学校づくりに努める。

学校への信頼は、「児童のよりよい変容」の蓄積の上に築かれる。その信頼の上に立ち、保護者や地域の人々の協力を得て、教育活動や子どもの生活をより豊かなものにするとともに、学校・家庭・地域が協働して子供を育てていく関係を築く。

保護者・地域と教職員の願いは本来は同じであり、「子供たちのために」に尽きる。ただ、子供をみる視点や角度が違うことがある。私たちは学校教育に携わるプロフェッショナル集団であることに誇りをもちつつも謙虚に、情報・行動連携に努める。

- (4) 意識の変化に対応できる学校づくりに努める。

学校や教職員への思いは多様化している。教職員の児童への対応の仕方、服務態度（接遇、出退勤時刻、書類の提出期限、机上整理など）、服装（名札、儀式的行事など）や言葉遣いにも細心の注意を払う必要がる。開示・訴訟型社会になりつつある今日、組織として説明責任を果たすことが求められ、また、これまで受容されていたことが通らなくなっている。繊細過敏になった社会に対応するためにも職業人（教育公務員）としての自覚と良識をもった教職員でなければならない。

- (5) 子供の世界や感性を尊重する。

「子供は未熟な大人」の部分が全てではない。一人一人が悩み、考え、日々懸命に生きていることを忘れない教師であってほしい。自身の小学校生活を振り返れば、そのことがよく分かるはずである。

- (6) 今あるものを常に見直し、改善につなげる組織である。

学校が会おう様々な課題は、既存の思考、組織、取組では対応できなくなっている。今ある学校の在り方、組織の在り方、教育活動を常に「改善」の視点をもって、見直していく学校でなければならない。